GTEC通信 vol.82

高岡高校における英語指導の変革と スーパーグローバルハイスクールの取組

富山県立高岡高等学校

富山県立高岡高等学校は、今年度創立116年目をむかえる伝統校であり、東大をはじめとする難関大への合格者を例年多数輩出する全国有数の進学校である。平成24・25年度は文部科学省「英語力を強化する指導改善の取組」の拠点校指定を受け、平成26年度からはスーパーグローバルハイスクール（以下、SGH）の指定を受け研究をスタートさせている。SGHを推進していく串田至人教頭先生と、英語の指導変革に取り組んでこられた英語科の松倉輝代子先生にお話を伺った。

串田教頭先生・英語科松倉先生インタビュー

県全体で「ふるさと学習」を推進。富山のことを世界で発信できる人材の育成をはかる。

ベネッセ SGHとして、今後取り組んでいかれるテーマについて、教えてください。

串田先生 本校はSGHのテーマとして「ふるさとに誇りと愛着を持ったグローバル・リーダーの育成」を掲げています。今後グローバル化する世界に出ていっても、自分たちのふるさと富山のことを誇りと愛着を持って発信することができるようになってほしいという願いをこめています。実は、富山県においては、富山の郷土史などをまとめた教材も作られており、県全体としてふるさと学習を推進しています。富山のことを英語でまとめた「KITOKITO TOYAMA」という教材も、教育委員会で作成し、配布をしており、既にこのテーマでSGHの研究を進めている下地は十分にできていると言えます。

県内3校で探究学習を推進 今後は課題研究も英語でプレゼン

ベネッセ SGHにおいて求められる探究学習については、どのように取り組まれる予定でしょうか。

串田先生 探究学習についても、既に本校では数年前から取り組んできています。平成23年度に理数科にかえて探究科学科を設置しました。ここでは１年次から課題研究の手法を学びながら、自身の課題研究テーマを探り、２年次にテーマ研究に取り組み、研究内容をプレゼンするなどの探究学習を進めてきました。県内の富山高校や富山中部高校にも探究科学科が設置されていますので、３校合同で先生方の合同研修会なども行っています。例えば昨年度は課題研究の評価のあり方をどのように行うか、ルーブリックをどのように設定すれば、生徒の課題研究・探究学習がより学びの多いものになるかなども、学校の枠を超えて既に検討を重ねてきています。これらを活かし、今後のSGHの探究学習を進めていこうと思います。

ベネッセ SGHの指定を受けて、特にこれから新たに取り組んでいくことは何でしょうか。

串田先生 ふるさと学習や探究学習については、これまでも進めてきたことですから、よりいっそうその内容を深めていくということになりますが、今後は課題研究の発表も英語で行ったり、アメリカでの研修を行うといった取り組みが新たに加わってくることになります。また、富山には国連機関であるNOWPAP（北西太平洋地域海行動計画）のオフィスもありますので、こういった外部機関ともよりいっそう連携を強化していくことになります。

ドラスティックには変えない。これまでの指導に積み重ねて生徒が活動する割合を増やすスタイルに。

ベネッセ SGH指定を受ける前の平成24・25年度には文部科学省の「英語力を強化する指導改善の取組」の拠点校の指定も受けて、英語指導をより充実させてこられたかと思いますが、どのような取り組みを行ってこられたかを教えてください。

松倉先生 平成24年度から拠点校の指定を受けて、英語指導改善を進めてきましたが、「ドラスティック」にこれまでの英語指導を変えたわけではありません。むしろ、これまでの指導で生徒の英語力をしっかりと伸ばしてきていましたし、実は10年以上前から２年生などでは「英語で授業を行う」という取り組みも一部の科目で行っていました。そのため、これまでのやり方を一気に変えてしまうということではなく、これまでの指導で大事にしてきた部分は残しつつ、よりいっそう「生徒が英語を使って活動する」時間を増やし、特にWritingやSpeakingなどの活動の割合を増やしてきたというのが実情です。単に教科書の内容理解にとどまらず、４技能をバランスよく伸ばしていけるように意識しています。

これまでにも意識していた授業での目標をCAN-DOリスト形式で明文化

ベネッセ 拠点校として具体的に取り組んでこられたことを教えてください。

松倉先生 まず行ったこととして、CAN-DOリスト形式の学習到達目標の設定と、指導・評価への反映です。これまでも、それぞれの科目において、目標として意識していたことや、共通して行っている指導はあったのですが、それらをこの機会にCAN-DOリストとして明文化することにしました。具体的な言葉を用いてCAN-DOリストとして明文化するのは苦労しましたが、作成したことによって、教員にとっていくつもメリットがありました。特に、 CAN-DOリストの作成前に比べて、英語教員間で言語活動や指導法について共有したり、統一したりと、協力することが増えました。また、生徒にとっても、一つひとつの活動がどのような力に結び付くのかを意識するようになったり、自己評価により自分のできることとできないことを意識し、自分の伸びを自覚できるようになったと思います。

活動に合わせ、Speakingテスト・Writingテストの機会も増やす

ベネッセ CAN-DOリストの策定に合わせて、指導・評価をどのように変えてこられたのでしょうか。

松倉先生 拠点校として取り組みを進める中で、特にWritingやSpeakingの活動を授業の中では多く取り入れるようになりました。これに伴って、当然ながらWritingテストやSpeakingテストといった評価の機会も増やしていくことになりました。１年生であれば、Writingテストは年間10回、Speakingテストは年間３回と、評価の機会を増やし、指導と評価の一体化を意識してやってきました。

松倉先生

英語表現Ⅰの授業では、１学期は「身近な事柄について、簡単な表現を用いて１分間程度独力で話し続ける力を養う」という目標を立てていますので、１分間トークや聞く態度を養う活動を授業で行っています。そしてこのような活動を普段行うため、学期の最後のSpeakingテストでは、テーマを決めて１分間のShow&Tellを行います。２学期になると後半にはディスカッションまで活動を行いますので、Speakingテストも３人１グループで４分間のディスカッションを行わせるなど、授業での活動と、学期末のSpeakingテストがしっかりとリンクするように、評価を行っています。

外部試験で英語力の伸びを客観的に測定するため、Speakingテストも導入

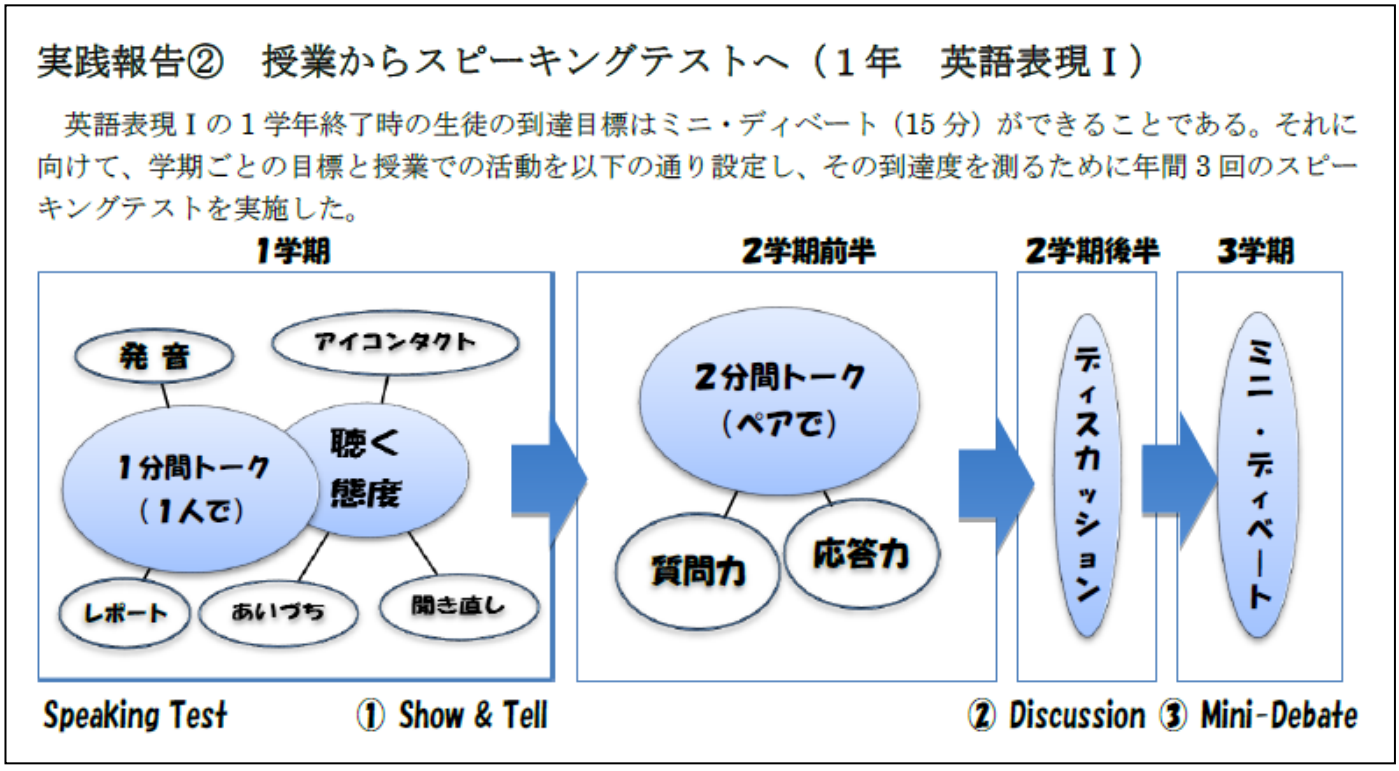
ベネッセ

外部試験の活用についても教えてください。

松倉先生

英語を使う活動や、評価の機会を校内でも増やしていますので、実際にその取り組みを通して英語力がついたかどうかを客観的に測定するために外部試験としてGTEC for STUDENTSを活用しています。Writingを含めた３技能が測定できるため１～３年生で計５回受検をしていますし、Speakingについてもタブレットで一斉に行うことができるということで、今年度から１・２年生で導入することにしました。GTECで測定した結果、事業初年度の学年（現3年生）に比べても、事業2年目の学年（現2年生）の方が、1年次のスコアの伸びが大きいので、この事業で取り組んできたことが少しずつ積み上がって成果として表れていると思っています。

【資料1】英語表現Ⅰでの活動･テストの流れ



授業の質を落とさず、生徒の頭をフル回転させる仕掛けを意識する。

ベネッセ　英語で授業を行う上で、意識されていることはありますでしょうか。

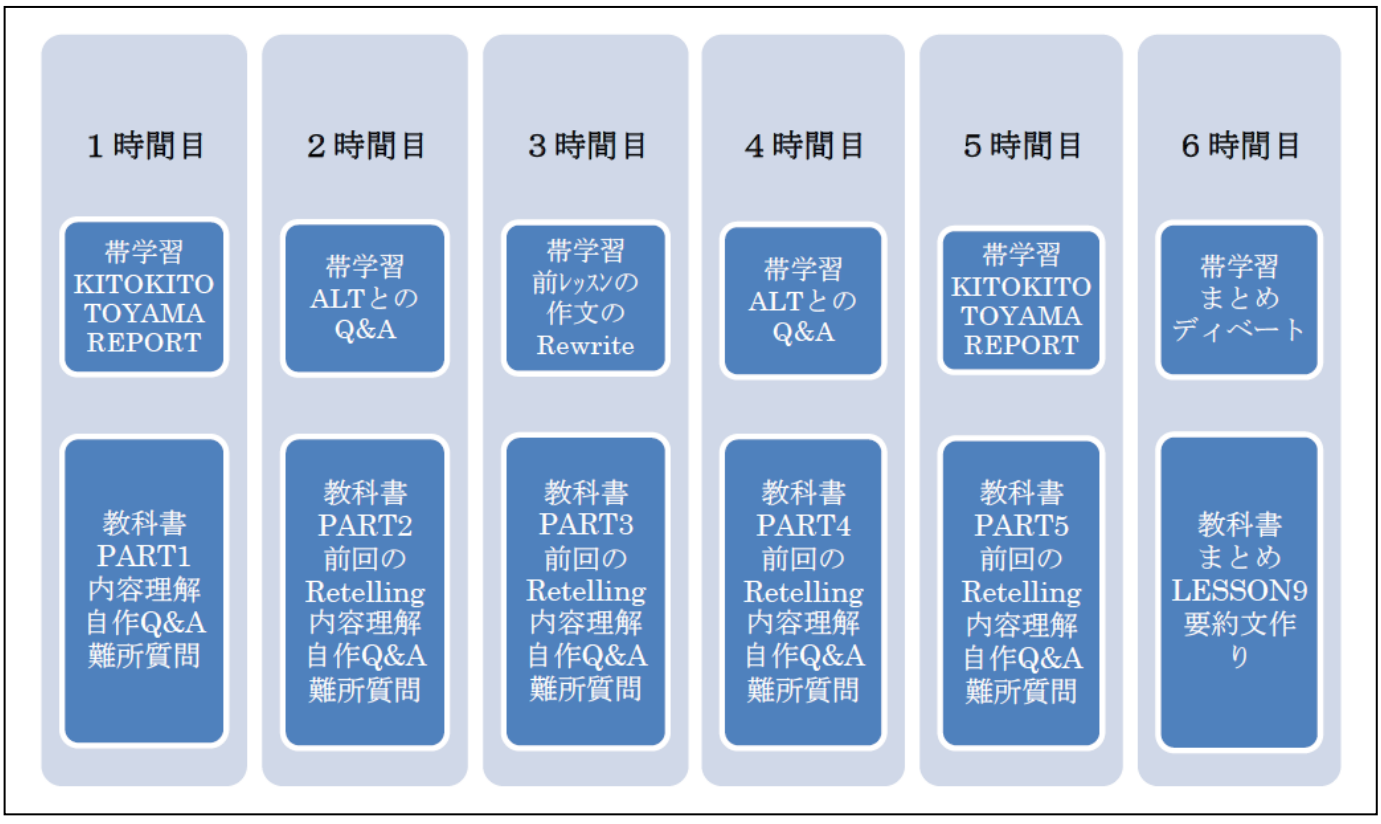
松倉先生　英語で授業をしても、授業の質を落とさないということを意識しています。本校の生徒は、頭をフル回転させるようなタスク・仕掛けを行っていかないと、授業に飽きてしまいます。例えば、Readingで本文を読んだ後に、内容理解のタスクとしてT/Fを課しても良いのですが、T/Fの問題を作らせるということをタスクとして課すことがあります。こうすると、どの部分ならT/Fの問題になりうるか、どのような問題を作ればいい問題になるかを考えながら生徒が英文を読むことになりますので、深く読む姿勢につながります。実際に、教員が驚くほどいい問題を作る生徒、深く深く本文を読み込んでくる生徒もいます。こういった仕掛けを意識することで、生徒の力を引き出すことができるのではないかと思います。

大学に入ってからも十分に使える英語力をつけさせたい。

ベネッセ　最後に、生徒にどのような英語力をつけさせたいかを教えてください。

松倉先生　東大に入った生徒が、大学で行われる授業が英語だからわからない、と言わせたくはないと思っています。大学入試を突破することはもちろん大事ですが、大学に入ってからも使える英語力をつけさせたいですね。

【資料2】4技能をリンクした2年生の授業構成例



【資料3】高岡高校スーパーグローバルハイスクール構想図

高岡高校スーパーグローバルハイスクール

1 基本方針

幅広い教養と課題解決力を備えるとともに、**ふるさとに誇りと愛着を持ったグローバル・リーダー**の育成を目指す。
そのため、探究科学科における課題研究と体験的・探究的な学習プログラム、及び「とやまの高校グローバル人材育成促進事業」における研究成果をベースに、さらに海外へ視野を広げた充実した学習活動を企画・実施する。

目標とするリーダー力

☆ 幅広い教養と深い専門性を基盤として、グローバルな社会・ビジネス課題を発見し、その課題を解決していく探究力

☆ 異文化を理解するとともに、ふるさとの伝統文化を土台に自らの意見を持ち、それを世界に伝える情報発信力・英語力

2 取り組み内容

「きときと」は富山弁で「新鮮で活きがよい」の意

課題研究メインテーマ:「きときと！グローバル富山」
・・・活き活きと世界に輝くふるさと富山の研究と世界への発信

◎環日本海の環境保全に向けた調査研究
→ 国連機関NOWPAP、富山県国際・日本海政策課等と連携
◎ふるさと文学・伝統文化や新たな文化研究と海外への発信
→ 万葉集や富山にゆかりの文学と海外文学の比較研究
・・・高岡市万葉歴史館、高志の国文学館、富山大学等との連携
アニメなど富山に関わり深い新たな文化等の研究
◎富山の地域資源を生かした国際ビジネスや国際観光戦略の研究
・・・地域の特色ある産業、豊かな観光資源、食文化等
その他、グローバルな社会・ビジネス課題、異文化理解の課題など

プレゼンテーション能力の向上

探究科学科設置3校の合同発表会、教育研究会

課題研究を深めるための生徒海外派遣
1 NOWPAPと連携した北東アジア研修
2 アメリカ研修（課題研究発表等）

北東アジア地域の環境を直に体験し、国際環境協力に対する理解を深める

課題研究発表のためのインターネット交流体験
・インターネットのテレビ電話機能を活用し、海外在住のグローバル企業で活躍する外国人等に、課題研究やグローバル企業のビジネスの課題等についてリアルタイムで英語で、発表、質疑応答するなどの交流を実施

異文化理解の深化（課題研究発表を含む）
・留学生を招いた異文化理解ワークショップ
・大学教授や外国人による異文化理解のための講演

各種コンテスト・資格試験へのチャレンジ
・英語ディベートコンテスト、プレゼンテーションコンテスト
・国際地理オリンピック ・エコノミクス甲子園
・GTEC、TOEFL等資格試験

本校独自の教育課程

TKR(高岡高校リサーチ)
教科「情報」における実習を利用し、「読む」「書く」「表す」「話す」能力を開発する、少人数ゼミによる学習プログラム
（情報の収集、分析、整理、そしてプレゼンテーションの実施）

TKE(高岡高校エクスペリエンス)
「総合的な学習の時間」における様々な社会体験的・探究的な学習活動

SGゼミ（H26年度は人文社会科学科英語ゼミ、理数科学科数学ゼミ）
・コミュニケーション能力、実用的な英語力の養成
人文社会科学、理数科学分野の英文の文献読解・発表、英語劇の実演等を通した英語力の向上
・日本人としてのアイデンティティの確立と異文化理解の学習

3 運営組織、連携機関等

運営指導委員会
富山大学
探究科学科設置3高校教育研究協議会

SGH研究委員会・事務局
管理職、教務、探究、英語科、地歴公民科

外部の異文化理解学習プログラム

国連機関NOWPAP
富山県国際・日本海政策課
地域の文化施設、地域企業等
海外のグローバル企業

4 研究開発の評価指標

・グローバルな問題に関心を持ち、課題を設定する生徒の割合
・将来留学したり、国際的に活躍したいと思う生徒の割合
・英語ディベート大会やプレゼンテーション大会等の入賞者数
・GTEC、TOEFL等の達成状況（CEFR B1, B2レベル達成者等）
・*ふるさと富山の魅力を海外へ発信したいと思う生徒の割合*

【資料4】高岡高校CAN-DOリスト

平成２５年度　第１学年							平成２５年度　第２学年							第3学年	
		前期(H25.4月～9月)	7月GTEC目標(点)	後期(H25.10月～H26.3月)	12月GTEC目標(点)	1年Can-Do List GTEC目標 Grade 4			前期(H25.4月～9月)	7月GTEC目標(点)	後期(H25.10月～H26.3月)	12月GTEC目標(点)	2年Can-Do List GTEC目標 Grade 5	3年Can-Do List GTEC目標 Grade 6	7月GTEC目標(点)
R	1	英語Ⅰ(コミュニケーション英語Ⅰ)の教科書の英文を読み、意味のかたまり(センスグループ)に注意しながら、段落ごとの概要を把握できる。	190	英語Ⅰ(コミュニケーション英語Ⅰ)の教科書の英文を、意味のかたまり(センスグループ)ごとにほとんど語順どおりに(前に戻らないで)意味を把握できる。	200	トピック文・サポート文を区別して、段落内の要点や内容のつながりを理解できる。	R	1	教科書の複雑な構造の英文について、意味のかたまりや文の修飾関係を見抜き、内容を理解できる。	205	継続	210	様々な話題・ジャンルについての文章を読んで、段落間のつながりや全体の構成を理解し、要旨をほぼ正確につかむことができる。	様々な話題・ジャンルについての文章を読んで、正確に主張や内容を理解し、そのテーマに関して自分なりの意見を持つことができる。	220
	2	自習教材(600 Headwordsのホームリーディング)を読んで、辞書を使わずに意味を推測しながら大まかな話の流れをつかむことができる。		900 Headwords				2	教科書の抽象度の高い英文について、段落のkey sentenceを見つけ、筆者の伝えたいことを掴むことができる。		継続				
	3	自習教材(600 Headwordsホームリーディング)を読んで、辞書を使えば詳細な部分を理解できる。		900 Headwords				3	1200 Headwordsの英文を読んで、辞書なしで意味を推測しながら大まかな話の流れを掴むことができる。		1400 Headwords				
L	1	Classroom English(授業で出される指示など)をほぼ確実に聞き取り、その内容を理解して行動することができる。	180	英語Ⅰ(コミュニケーション英語Ⅰ)のCDを聞いて、指示された英文を書き取ることができる。	190	クラスメイトの発表を聞いて、概要を理解し、内容の面白さや分かりやすさを考えながら聞くことができる。 状況から判断して、説明や指示をほぼ理解できる。	L	1	教科書の内容に関する質問を聞いて、正しく答えることができる。	200	継続	225	クラスメイトの発表を、自分の意見と比較しながら聞くことができる。 教科書のレッスンテーマに関する話をほぼ理解できる。	クラスメイトの様々なテーマの発表を聞いて、その話題に関しての自分の知識・理解を深めることができる。 ある程度の長さの文章を聞いて、話の展開を理解し、主題をつかむことができる。	235
	2	ALTが話すSmall Talkやや ALTと日本人教師が話す短い会話(Today's Conversation)の概要を理解することができる。		英検準2級レベル程度の物語(シャーロックホームズ)を繰り返し聞いて、内容に関する質問に答えることができる。				2	様々な場面でのクラスメイトの意見を、自分の意見と比較しながら聞くことができる。		継続				
	3	クラスメートの意見を聞いて概要を理解し、ポイントをメモすることができる。		継続				3	英検２級レベル程度の英文を聞いて、質問に正しく答えることができる。（小テスト・実力テストのリスニング問題）		継続				
W	1	英語表現Ⅰの授業で学んだ例文を応用し、与えられたテーマについて書くことができる。	115	英語Ⅰ(コミュニケーション英語Ⅰ)のレッスン内容についてのリフレーズ又は要約文を完成させることができる。(空所補充形式)	120	自分の意見を、意見→根拠（＋具体例）で書くことができる。 基礎的な文法事項を用いて、平易な英文を書くことができる。	W	1	教科書の各パートの内容について、段落の要点やつながりを理解し、40～50語程度の要約文を書くことができる。	125	継続	130	身近な話題についての自分の考えを、段落立てて、意見→根拠（＋具体例）→結論で書くことができる。 文法的に正しい英文を書くことができる。	様々な話題についての自分の考えを、段落立てて、意見→根拠＋具体例ー（譲歩ー）結論で書くことができる。 自然な表現を用いて、英文を書くことができる	135
	2	英語Ⅰ(コミュニケーション英語Ⅰ)のレッスンで読んだ話題についての感想や意見を、具体例や理由を入れて5文程度で書くことができる。		英語Ⅰ(コミュニケーション英語Ⅰ)のレッスン内容や自習教材(ホームリーディング)についての感想や意見を、具体例や理由を入れて4～5文程度で書くことができる。				2	教科書に関連した話題について、段落構成の指示に従って、自分の意見・考えを段落立てて書くことができる。		「段落構成の指示に従って」を取る				
	3	身近な事柄について、意見とその理由を40語程度の英文で書くことができる。		身近な事柄について、具体例や理由などを入れながら、導入→展開→まとめの構造を意識して60語程度の英文を書くことができる。				3	正しいスペル・文法・語法で、自分の書きたい内容を読み手に正確に伝えることができる。		継続				
S	1	与えられたテーマについて各自でBrainstormingをし、3文程度で自分の意見を述べることができる。		英語Ⅰ(コミュニケーション英語Ⅰ)のレッスンで読んだ内容を、与えられたヒント(キーワード・ポスター等)を用いて説明することができる。		自分自身や身近な話題について発表できる。 クラスメイトの発表を聞いて簡単な質問したり、答えたりすることがある。	S	1	教科書の内容に関する質問に答える際、根拠を示して答えることができる。		継続		身近な話題・なじみのある話題について、賛成・反対の理由をつけて話すことができる。	興味関心のあるテーマ・自分の将来に関わるようなテーマでスピーチを行うことができる。	
	2	教科書の内容に関連した身近な事柄について、簡単な表現を用いて１分間程度話すことができる。		与えられたテーマについての自分の意見を、理由や具体例を２つ程度加えながら述べることができる。				2	教科書の各パートの内容について、与えられたキーワードを用いて5文程度にまとめ、パートナーに伝えることができる。		「与えられた」を取る				
	3	相手の話を聞いて、内容に関する質問をすることができる。		ペアやグループでの話し合いやクラスでの発表の際に、相手の意見に対して適切な質問をしたり、相手の質問に応答したりすることができる。				3	教科書に関連した話題について、自分の意見・考えをパートナーと話し合うことができる。		継続				